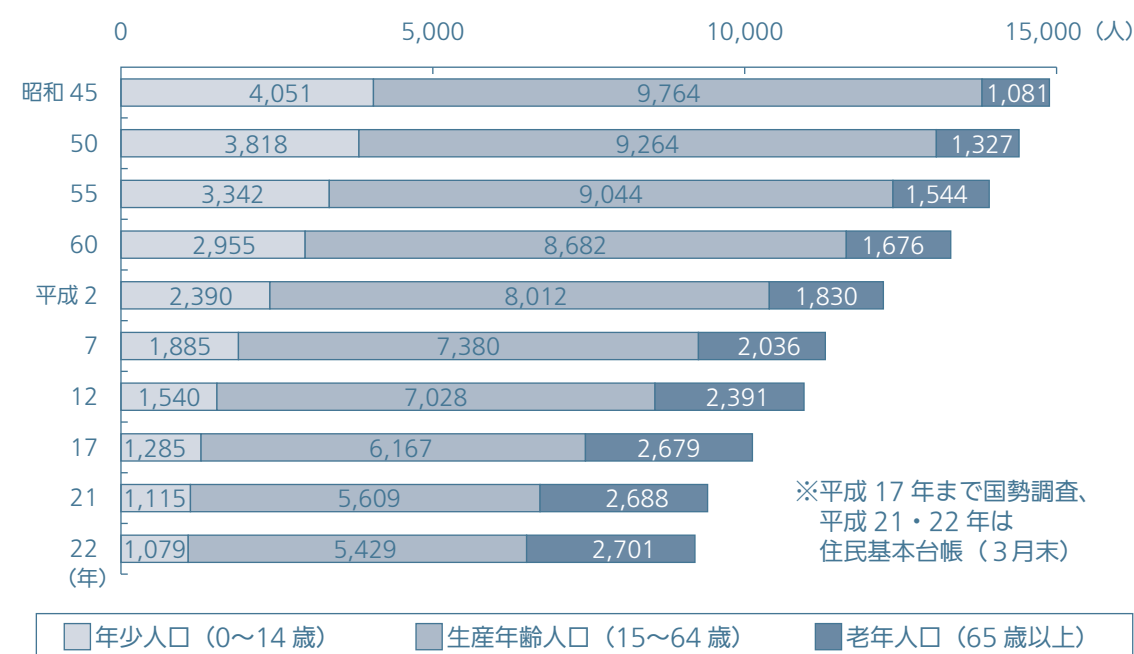


19 子育て支援（家庭教育、青少年健全育成）

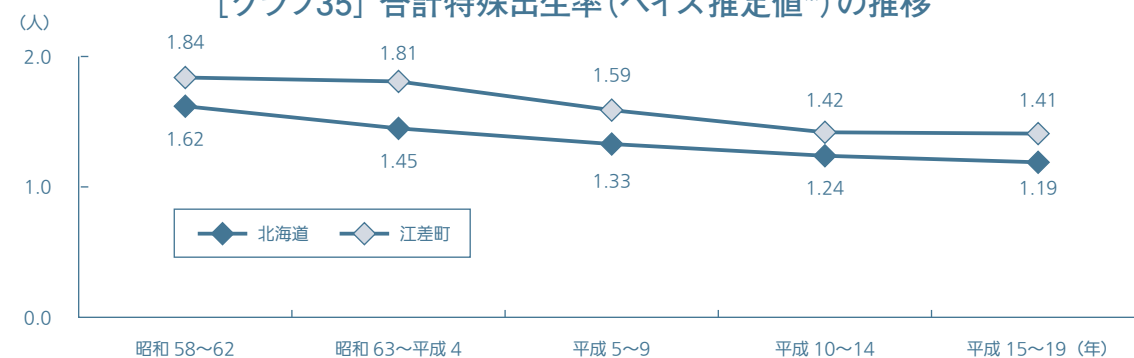
現状

- 平成22年度末の15歳未満児童数は1,079人（住民基本台帳）で昭和35年（5,343人）と比較すると約8割減少し、少子化傾向が続いています。

〔グラフ34〕 15歳未満人口の推移



〔グラフ35〕 合計特殊出生率（ベイズ推定値※）の推移



※（ベイズ推定値）対象の市区町村と同質と考えられる周辺地域（二次医療圏）のデータを組み合わせたベイズモデルにより合計特殊出生率および標準化死亡率を補正したものです。

〔表17〕 15歳未満児童数の推移

	昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	21年	22年
児童数(人)	4,567	4,051	3,818	3,342	2,955	2,390	1,885	1,540	1,285	1,115	1,079

（平成17年まで国勢調査、平成21・22年は3月末住民基本台帳）

- 町内には幼稚園2園（町立・私立）、保育園3園があります。3～5歳のうち、42%が保育園、47%が幼稚園（町立14.5%、私立32.6%）に就園しています。少子化による定員割れ、施設の老朽化に伴い保育所を統廃合し、新設保育所を整備しました。
- 町営あすなろ幼稚園は、平成2年をピークに入園数が減り、現在は定員85人に対して33人という定員割れの状況です。私立江差幼稚園は平成22年に建て替え改築を行いました。

〔表18〕 保育所・幼稚園の状況

（単位：人、％）

		整備年次	当初定員	入所者数			定員	入所者数		入所率（％）
				H17	H20			H21	H22	
常設保育所	かしわざき保育所	昭和48	90	37	27	かもめ保育所（統合）	100	73	71	71.0
	五勝手保育所	昭和51	60	24	25					
	とよかわ保育所	昭和52	60	20	28					
	日明保育所	昭和54	60	22	20					
	水堀保育所	昭和47	60	24	31					
	計		330	127	131		170	125	112	65.9
幼稚園	あすなろ幼稚園	昭和53	90	50	29		85	30	27	31.8
	江差幼稚園	昭和42	120	67	90	H22年改築	90	74	77	85.6
	計		210	117	119		175	104	104	59.4
合 計			540	244	250		345	229	216	62.6

- 保育士の時間差勤務による延長保育や乳児保育、障害児保育、一時保育（里帰り出産含む）等も実施して住民要望に応じています。
- 留守家庭における小学校低学年の児童に対し平成5年度から、放課後対策として町内3か所に学童保育所を開設し、児童の健全育成に努めています。
- 核家族化や子育て情報の氾濫により子育てに不安や悩みを持つ保護者が増えるなか、平成15年度より日明保所内に地域子育て支援センターを開設しています。
- 「遅い江差っ子を育む地域連携プロジェクト」により、環境教育、青少年健全育成、放課後学習支援に関する取り組みを進めています。
- 江差町内の青少年健全育成に関係する団体・機関によるネットワークを形成し、青少年問題協議会（町）や青少年健全育成会議（教委）において、青少年健全育成に関する取り組みを進めています。

課題

- 女性のパート就業が増えるなか、保育所に対する家庭のニーズも多様化しており、子育て支援の多様な対応が求められています。
- 留守家庭における小学校低学年の児童対策が必要です。
- 子育てに悩みや不安を抱える保護者に対し、相談機能の充実が課題となっています。
- 核家族化が進み、家庭や地域でも人と関わる経験が少ないまま成長する子どもが増えています。
- 基本的生活習慣の欠如、食習慣の乱れ、自制心・規範意識の希薄化、運動能力の低下、コミュニケーション能力不足、小・中学校生活にうまく対応できない等の課題などが見られます。
- 青少年健全育成に関係するネットワークを深め、地域ぐるみで青少年の健全化に取り組んでいくことが必要です。

課題解決に向けた基本方針

- ・国が検討している「子ども・子育て新システム」による幼保一体化（幼稚園・保育所・認定子ども園）、仮称「こども園」の子育て支援体制のあり方について検討します。
- ・少子化傾向に歯止めをかけるための、総合的な子育て支援環境の向上を図ります。
- ・虐待や育児放棄による被害を防止します。
- ・地域で子育て支援に取り組むシステムづくりを進めます。
- ・青少年の健全育成に関する取り組みを地域ぐるみで進めます。

具体的な施策

子育て支援体制の充実	・指導の重点や指導内容を明確にした特色ある教育課程の編成実施、評価改善 ・多様な体験を通して自ら学ぼうとする意欲・態度の育成 ・異年齢集団や小・中学校、高齢者等との交流活動による人間関係の醸成 ・一人ひとりの発達段階に応じた支援の工夫や指導力の向上を図る研修の充実 ・基本的生活習慣の形成をめざした家庭、地域等との連携強化 ・幼小連携の推進（特に特別支援教育分野） ・幼保一体化などによる子育て支援体制の検討 ・ネットワークによる虐待防止、育児放棄等への対応
家庭教育の支援	・出産、育児に対する不安を解消し、子育てを地域全体で支援できる体制づくり ・顔のわかる子育てサポート体制づくり（新生児から入学までの間のフォロー体制づくりや、母親のグループづくりなど保健師と保育所、幼稚園、学校との連携）
青少年健全育成の推進	・青少年の健全育成に関する関係機関のネットワークの充実、強化 ・ネットワークを活用した青少年健全育成に対する総合的な取り組みの推進

20 保健

現状

（保健）

- 保健師は7名体制で、平成5年に開設した保健センターを拠点に、成人及び母子保健の分野で保健活動に加えて、介護保険福祉連携の中で活動しています。
- 江差町の死因ベスト3は悪性新生物、肺炎・気管支炎、心疾患で、高齢化により、全国と比べて肺炎・気管支炎の死亡が多くなっています。住民の健康に関する特徴としては、男性に収縮期血圧が高い人が多いこと、女性にLDLコレステロールが高い人が多いことなどです。また、40～74歳の国保加入者の4人に1人は高血圧で通院しており、糖尿病は7人に2人、脂質異常症は8人に1人通院しています。

[表19] 江差町における死因の推移 (単位:人)

	死亡総数	死因(1～5位)				
		1位	2位	3位	4位	5位
平成17年	128	悪性新生物 44	心疾患 15	肺炎 13	脳血管疾患 15	腎不全 4
平成18年	125	悪性新生物 35	心疾患 25	肺炎 14	脳血管疾患 13	腎疾患 3
平成19年	126	悪性新生物 35	心疾患 28	肺炎 10	脳血管疾患 10	糖尿病 4

- 平成20年度から始まった国保特定健診の受診率を高めるため、平成21年度には、各種健診の受診勧奨や健康推進事業を進めるため、健康推進員制度をつくりました。

（母子保健）

- さまざまな育児不安や悩み、問題を抱える家庭が増え、その種類も多様化しているなか、乳幼児健診・相談を実施して子供の健やかな成長発達を促す支援をするとともに、育児相談にも力を入れ子育て支援をしています。
- 子育て支援サポートサークル「キティ」では、小さな子どもを持つ保護者が交流する場としてあそびの広場を開催しており、年々利用数が増えています(平成21年度の延べ利用者数770人)。

